

【議事要旨】第3回 AI ロボティクスに関する関係府省連絡会議

1 日時

令和8年5月27日（水）11:00～11:30

2 場所

内閣府合同庁舎8号館8階特別大会議室

3 出席者

<議長>

阪田 涉 内閣官房副長官補（内政担当）

<副議長>

伊吹 英明 経済産業省製造産業局長

<主査>

河西 康之 内閣官房日本成長戦略本部事務局事務局長代行

菅田 洋一 （代理）内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官

<構成員>

西山 英将 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）

横山 征成 内閣府政策統括官（防災担当）

服部 準 （代理）警察庁長官官房審議官

市原 剛俊 （代理）こども家庭庁長官官房総務課サイバーセキュリティ・情報化企画官

田辺 康彦 消防庁次長

淵上 孝 文部科学省研究振興局長

森光 敬子 厚生労働省医政局長

林 俊宏 （代理）厚生労働省大臣官房審議官（老健、障害保健福祉担当）

堺田 輝也 農林水産省大臣官房技術総括審議官

井上 博雄 経済産業省商務・サービス審議官

田岡 卓晃 （代理）経済産業省大臣官房産業保安・安全 G 保安政策課長

奥家 敏和 経済産業省大臣官房審議官（商務情報政策局担当）

久保田 秀暢 国土交通省大臣官房技術総括審議官

角倉 一郎 環境省環境再生・資源循環局長

嶺 康晴 防衛省防衛装備庁技術戦略部長

<オブザーバー>

布施田 英生 総務省国際戦略局長

<出席者>

森田 正敏 （代理）警察庁長官官房技術企画課長

斉藤 卓也 復興庁統括官付審議官

4 議事要旨

○開会

○議事

・ AI ロボティクス戦略を踏まえた政策パッケージ案について
奥家経済産業省大臣官房審議官から、資料4に基づき、AI ロボティクス戦略を踏まえた政策パッケージ案の全体像について説明がなされた。

・ 実効性確保に向けたAI ロボティクス戦略の改定案について
奥家経済産業省大臣官房審議官から AI ロボティクス戦略の改定について、説明がなされ、AI ロボティクス戦略の改定案の取りまとめについて、議長一任として了承された。

○出席者からの発言

出席者より、下記のような発言があった。

(井上経済産業省商務・サービスグループ審議官)

- ・ 物流分野では、倉庫内搬送、ケースピッキング等といった先行タスクにおいて、ユースケースの創出・横展開を進めることが必要である。
- ・ 現場のニーズは非常に高いと認識しており、データ収集・モデル開発実証に加えて需要家側のリスク軽減・投資加速策といった中小企業にも活用しやすい導入支援策を、関係省庁と連携しながら講じる必要がある。

(久保田国土交通省大臣官房技術総括審議官)

- ・ 建設・土木分野では、現場条件の多様性を踏まえ、対象領域を絞り込みつつ実証・技術開発を進め、標準化や基準整備と併せて一体的に社会実装を推進する。
- ・ 共通基盤の拡張・高度化や、災害対応および維持管理における特殊機械へのフィジカルAI 導入・調達を進めることで、段階的な社会実装を進めるとともに、関係省庁と連携しながら開発・実装を加速する。

(塚田農林水産省大臣官房技術総括審議官)

- ・ 農林水産分野では、農業・林業に加え、飲食・食品製造業を新たに対象分野として追加し、人手不足が深刻な当該分野における AI ロボット実装の必要性を踏まえた検討を進める。
- ・ 配膳や製造工程の自動化が進む一方で多機能化対応が課題であり、AI ロボットの現場導入を加速し、生産性向上に取り組む。

(森光厚生労働省医政局長)

- ・ 厚生労働分野では、医療分野を新たに追加し、人手不足への対応として院内搬送、手術

支援、創薬支援等における AI ロボットの活用を推進する。

- ・ 一方で、医療分野については、技術面・制度面ともに課題が大きい分野であるため、課題を整理した上で、関係分野と連携しながら、段階的に取組を推進していく。

(林厚生労働省大臣官房審議官)

- ・ 介護分野においては、介護人材の不足が大きな課題となっているため、デジタル技術や AI の活用は喫緊の課題である。機器開発と合わせて普及の取組が重要であり、テクノロジーの複数年度にわたる継続的な導入支援及び伴走支援が重要である。
- ・ 具体的な活用場面としては、職員の業務負担軽減の観点から、配膳・移動支援・記録業務等の先行領域を中心に、先進的な事業者や関係省庁と連携しながら、早期の社会実装につなげていく。

(田辺消防庁次長)

- ・ 災害対応分野では、人が立ち入れない環境でのロボット活用等を進めるとともに、将来的な救助ロボット開発を含めた高度化に取り組む。
- ・ あわせてパワーアシスト装備や救急搬送用の資機材等の AI 化を含めた導入拡大により、関係省庁と連携し、AI ロボティクスの実装を推進する。

(嶺防衛省防衛装備庁技術戦略部長)

- ・ 防衛分野では、人口減少を踏まえ、人と同一の空間で活動可能なロボットの活用が重要であると認識しており、ロボティクスの研究開発を積極的に推進していく。

(森田警察庁長官官房技術企画課長)

- ・ 警察活動においては、災害・CBRNE テロ対応における捜索・救助活動のほか、パトロール活動でのロボット活用が期待されると考えている。

(齊藤復興庁統括官付審議官)

- ・ 復興庁では、福島ロボットテストフィールドにおいて、実物大のモックアップや実環境を再現した大規模な実証環境の整備を進めている。
- ・ 災害対応等におけるロボット・ドローンの実証・データ取得の場として活用を促進し、関係機関と連携して機能強化を図る。

(菅田内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官)

- ・ AI ロボティクスは人手不足解消および産業競争力強化の観点から不可欠な技術であり、これを関係省庁の広範な分野で実装に移す重要な議論であった。党の提言にあるように、AI 駆動型の世界に向けて、攻めと守りの一体的な推進が必要である。
- ・ 成長戦略でも議論したバーティカル AI とフィジカル AI を日本の勝ち筋として、この

2つの技術をしっかりと結び付けて推進することが重要である。

○挨拶

本会議の締めくくりにあたり、阪田内閣官房副長官補から挨拶があった。

(阪田内閣官房副長官補)

- 戦略本文及び実装ロードマップの改定作業に当たり、各分野の導入課題や必要な施策について丁寧に整理いただき、限られた時間の中で取りまとめを行っていただいたことについて、各府省の皆さまのご尽力に感謝申し上げます。
- AIロボティクスの社会実装に当たっては、技術、制度、人材、投資といった複数の課題が同時に存在しており、いずれも容易に解決できるものではない。したがって、これらを個別に対応していくのではなく、産業界、政府、研究機関等がそれぞれの役割を踏まえつつ有機的に連携し、一体となって本戦略を推進していくことが重要である。
- 本戦略については、今後も本関係府省連絡会議においてフォローアップを行っていくこととなるため、各府省におかれては、それぞれの所掌分野における取組状況や課題を引き続き精緻に把握し、着実に対応を進めていただきたい。

○閉会

以上